

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	ウ ジフン (う じふん)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2026 年 2 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 16 回 多感覚研究会
発表者(※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	ウ ジフン、大隈 玲志、加藤 一聖、大須 理英子
発表題目(※学会発表の場合のみ記載)	覚醒と持続的注意の逆 U 字型関係性は覚醒水準の低下によって崩壊する
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>注意のパフォーマンスは中程度の覚醒で最大化し、YerkesDodson の逆 U 字型曲線に従う。選択的注意では覚醒変動によってもこの関係性が維持されたが、覚醒変動に鋭敏な持続的注意における関係性は不明確であった。本研究では持続的注意課題を用い、覚醒変動によっても逆 U 字型曲線がみられるか検討した。実験の結果、覚醒が中程度の状態では逆 U 字型が確認された一方、覚醒が低下した状態では法則が消失し、低覚醒ほど成績が良い負の線形傾向が示された。本研究は、覚醒水準の低下や調節不全が、注意と覚醒の最適な逆 U 字型関係を崩壊させることを示唆する。</p>	

※無断転載禁止